

4月3日
供用開始



知的障がい者通所更生施設
「さんたらっぴ」完成

昨年から、社会福祉法人象潟健成会が建設を進めてきた知的障がい者通所更生施設が完成しました。4月1日には開所式が行われ、3日から供用開始しましたので、施設の概要などを紹介します。

にかほ市では、初めての知的障がい者通所更生施設が仁賀保高校の近く(位置図参照)に開所しました。施設の名前は「さんたらっぴ」といい、「風よけのある陽だまり」という意味があるそうです。

知的障がい者
通所更生施設

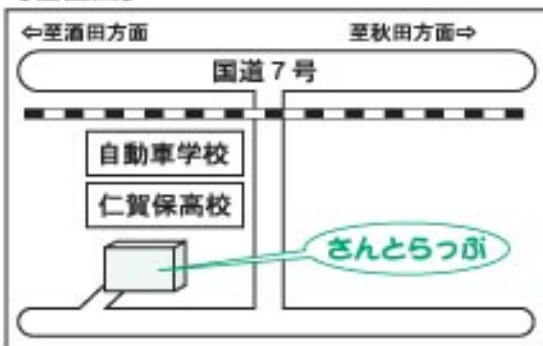
原則18歳以上の知的に障がいのある方々が、通いながら自立生活に必要な援助を受けたり、作業訓練を行うことで社会的更生を図る施設をいいます。

以前は、象潟小滝地区に「太陽の家」がありましたが、老朽化などのために今年3月で廃止となりました。

主な支援内容

- **作業支援**
作業を通して、責任感や持続力が身に付くように支援します。
- **生活支援**
社会生活の基本が身に付くように支援します。
- **その他**
健康管理や心身のリフレッシュを支援します。
- **施設の概要**
住所 にかほ市象潟町
字下浜山5-3

【位置図】



▶秋田県漁業協同組合南部総括支所前の護岸壁には、20人の子どもたちの楽しい絵が並んでいます

▼沖の島と灯台のある島を結ぶ「沖の弁天橋」。釣り人にも人気が出そうです



子どもたちの絵が「壁画」に
沖の弁天橋も完成



金浦漁港の護岸壁をキャンパスに、「海」をテーマとした壁画が完成しました。これは漁村の活性化と港の景観改善、利用促進のために、平成17年度漁村活性化推進事業で実施したものです。

図案は、にかほ市内の小中学生から募集した原画の中から20点を選考し、縦1・5m横2・0mに拡大して作成しています。ぜひ一度ご覧になってみてください。

また、金浦地区の主要産業である水産業の振興と海への親しみをこれまで以上に持ってもらいたいために、県では金浦漁港の改修事業を実施しています。その中の17年度事業では、沖の島の弁天様付近から灯台のある島に、長さ40mの橋が完成しました。橋の名称は、金浦小学校の6年生(現中学1年)から市民に親しまれる名称を募集し、選考の結果、鎌田貴文君の「沖の弁天橋」に決定しました。散策コースとして利用してみたいかかでしょうか。

たくさんの人で使ってね

仁賀保地域小中学校が福祉用具を寄贈

3月28日、仁賀保地域の小中学校の児童・生徒から社会福祉協議会(細矢鐵雄会長)への福祉用具の贈呈式がスマイルで行われました。

これは、児童らが日ごろ奉仕活動で集めた空き缶のプルタブを換金して得たものです。今回は2年間で600kgものプルタブを集めました。

贈呈式では、「プルタブ一つひとつにみんなの気持ちがつまっています。たくさんの人に使ってほしいです」と歩行補助車とおしぼりが同協議会会長に手渡されました。



金浦温泉が再オープン

先月1日に廃業した金浦温泉が、4月1日、(株)たつみ企画(佐藤寛代表)の運営で再オープンしました。

金浦温泉は、昭和55年に大竹小学校跡地に開業以来、多くの地元住民に愛された温泉施設。この日も朝早くから、たくさんの方が訪れ「やっぱりここはいいな」と営業の再開を喜んでいました。

